様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24 年 4 月　12 日現在

機関番号：16301
研究種目：基盤研究Ｃ
研究期間：2009～2011
課題番号：２１５２０８２１
研究課題名（和文）　ハワイの和太鼓文化：ハワイ祭太鼓の誕生と発展
研究課題名（英文）　Japanese *Taiko* Drum Culture in Hawai ‘i: The Birth and Development of Hawai ‘i Matsuri Taiko
研究代表者
中原　ゆかり　（NAKAHARA YUKARI）
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：００２８４３８１

研究成果の概要（和文）：

本研究の３年間にわたる調査・研究成果は下記の３点にまとめられる。
（１）日本国外の和太鼓（組太鼓）についての研究は、アメリカ合衆国本土が主であり、ハワイについては報告されてこなかった。本研究はハワイの和太鼓に注目した、はじめての調査である。ハワイが米本土と日本の中間地点にあり、独特の音楽文化をもつ地域であることが、和太鼓文化にも表象されている点を明確にした。
（２）ハワイ祭太鼓およびハワイの和太鼓グループのパフォーマンス、日本や米本土のグループとの交流、ワークショップ等に関するビデオテープ 200 本のＤＶＤ化をおこない、リストを作成した。ハワイに和太鼓グループが誕生してから日本や米本土との技術的な影響関係の中で発展して現在に至るまでの、貴重な資料となった。
（３）演奏曲のレパートリーやその特徴､そして他のグループや演奏家とのコラボレーション、曲の創作方法について記録した。日本や米本土と共通のレパートリーの他に、ハワイで創作した独自のレパートリーがある。曲の創作は独自の発想に基づいているが、材料として用いるリズムや技術は、地域や音楽ジャンルにこだわることなく自由に取り入れ、なおかつ和太鼓(組太鼓)共通の表現をも維持していた。表現媒体としての和太鼓の可能性を示唆するものであった。

研究成果の概要（英文）：

Japanese *Taiko* Drum Culture in Hawai‘i: The Birth and Development of Hawai‘i Matsuri Taiko

This study reports the results of my three-year research project on *wadaiko* (Japanese *taiko* drum) culture in Hawai‘i. The following are a summary of my research:

1. To date, research on *wadaiko* ensemble drumming outside Japan has concentrated on activities on the US mainland. This study is the first to focus on *wadaiko* performance activities in Hawai‘i. It demonstrates that characteristics of Hawai‘i as being midway between the US mainland and Japan and as having unique musical cultures are revealed in Hawai‘i *wadaiko* culture.

2. As part of my research project, I have converted 200 videotapes covering performances of Hawai‘i Matsuri Taiko and other *wadaiko* groups in Hawai‘i, their interaction with Japanese and mainland US groups, and *taiko* workshops, into DVD format, and made an inventory of them. This serves as valuable documentation on the birth of *taiko* performing groups in Hawai‘i and their development up to the present through technical interactions with Japanese and mainland groups.

3. I have also recorded the Hawai‘i performers’ repertoire, detailing their characteristics, their collaborative activities with other individual and group performers, and their compositional methods. The groups in Hawai‘i have their own compositions in addition to the repertoire shared with Japanese and US mainland groups. While the creation of new pieces is based on their own unique ideas, the compositions use rhythms and techniques which cross geographical boundaries and musical genres, and yet also maintain common expressions of *wadaiko* ensembles. This suggests the possibilities of *wadaiko* as an expressive medium.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	2,300,000	690,000	2,9990,000

研究分野：人文学
科研費の分科：文化人類学
　　細目：文化人類学・民俗学
キーワード：文化人類学、民族音楽学、日系、ハワイ、アメリカ、芸能、歌、太鼓

１．研究開始当初の背景

研究代表者は、1997 年よりハワイ日系社会の大衆音楽調査に着手してきた。ハワイ日系社会の主な大衆音楽・芸能は、①１一世たちが残した民謡「ホレホレ節」、②２移民以来の盆踊り、③３移民以来の日本の流行歌、そして④1980 年代後半からの和太鼓（組太鼓）である。

研究代表者が特に和太鼓に注目した理由は、研究開始当初まで調査してきた他の日系の音楽・芸能と比較すると、和太鼓はあらゆる世代に圧倒的な人気をえていた点である。また和太鼓は、ハワイの日系の芸能の中で最も新しいにも関わらず、いち早くハワイ全体に普及してきた。そして和太鼓は、日系のどの音楽や芸能よりも、日本や米本土との交流が頻繁であった。そしてハワイ最初の和太鼓グループが、1984 年に結成された「ハワイ祭太鼓」であった。

２．研究の目的

本研究の目的は、ハワイ最初の和太鼓(組太鼓）グループであるハワイ祭太鼓を調査することにより、ハワイの和太鼓文化を考察することにある。

和太鼓は、1950 年代に日本で考案されて普及し、欧米でも 1970 年代に人気となって日系社会を中心に普及した。ハワイではやや遅く、1980 年代に最初の和太鼓グループが結成されて普及している。そして現在日本に約１万個、北米には日系社会を中心に 250 個の和太鼓グループがある。

「和太鼓（組太鼓、創作太鼓）」の情報誌や実用書は、林英哲『あしたの太鼓打ちへ』（1992）や Varian, Heidi "The Way of Taiko" (2005)等多数あり、学校教育で太鼓を扱うための教材も多い。しかし「和太鼓」の研究は、日本芸能で使われる太鼓全般を記した茂木仁史『入門日本の太鼓』(2003）や、北米日系人の太鼓で表現されるアイデンティティに注目した Otsuka, Chie "Learning Taiko in America"(1997）等、近年はじまったばかりであり、ハワイに関しては皆無である。

ハワイは日本と米本土の中間地点に位置し、文化的にも日本、米本土との交流が頻繁であるという特徴がある。先行研究のないハワイの和太鼓文化を調査・研究する本研究により、和太鼓研究全般に貢献する意義がある。

３．研究の方法

研究方法としては、ハワイ祭太鼓の活動を調査することにより、民族誌を作成する。調査方法としては、（１）文献、雑誌、新聞記事、演奏会やワークショップで使用した紙媒体の資料の収集、（２）演奏会やワークショップ等を記録したビデオ、録音テープ、およ

び発売した CD 等の映像音響資料の収集、（３）演奏活動についての参与観察、（４）担い手へのインタビューである。

研究期間中には、（１）の紙媒体の資料と（２）の映像音響資料が予想以上に多く、特にビデオテープ200本の劣化を危惧して全てDVD 化することに時間を費やした。これらの収集資料の中には、ハワイ祭太鼓のもののみにとどまらず、彼らが交流したハワイや米本土の和太鼓グループや日本の和太鼓グループ、ハワイアンやコリアン等といった日系以外の演奏グループの映像、演奏会プログラム等も含まれていた。ハワイ和太鼓の黎明期の事情を知るための貴重な資料である。

また（３）のハワイ祭太鼓の演奏の参与観察については、平成21年度、22年度には7月に、平成23年度には2月に現地におもむいておこなった。7月は、ハワイで和太鼓の活躍する機会が最も多い夏の盆踊りの期間であり、盆踊りの場での＜福島音頭＞の演奏（太鼓、歌、笛）や盆踊りのインターミッションに演奏する組太鼓の演奏、そして盆踊りの場での踊り手や仏教寺院のメンバーとの交流を観察することができた。平成 23 年度２月には、グレイト・アロハ・ラン（ハワイのマラソン・イベント）があり、早朝から昼までの数時間をストリートで太鼓を打ち続けるというパフォーマンスを観察できた。また、翌年の曹洞宗ハワイ別院100周年記念イベントに記念行事にむけたプレ・コンサートが始まっており、琴や尺八、三味線等とのコラボレーションを含めたミニ・イベントを多く観察することができた。

（４）の担い手へのインタビューは、ハワイ祭太鼓の代表であるフェイ・コマガタ氏をはじめ、発足以来現在まで参加しているメンバー、また習いはじめて１−２年になるメンバーから、練習方法等について詳しくきくことができた。またハワイ祭太鼓の演奏曲のレパートリーとその習得・練習方法、新しい曲の創作方法について、実演とともに話をきくことができた。

４．研究成果

研究成果として、下記の３点が明らかになった。

（１）日本国外の和太鼓（組太鼓）についての研究は、アメリカ合衆国本土が主であり、ハワイについては報告されてこなかった。本研究はハワイの和太鼓に注目した、はじめての調査である。

ハワイ祭太鼓は米本土の太鼓グループの影響で誕生した、ハワイ最初の太鼓グループである。結成後は日本と米本土の双方からプレイヤーを呼んでワークショップを開き、あるいはハワイでのステージをサポートした。ハワイは合衆国の中でもリゾート地であり、また日本からの観光客も多い場所であることが、米本土や日本のグループやプレイヤーを呼ぶことを容易にしていたのである。

また時には、日本や米本土に出かけてワークショップやステージで共演し、米本土や日本太鼓グループとの付き合いを深めてきた。特に 1997 年からはじまった北米の太鼓の祭典である Taiko Conference には 2008 年まで必ず出演している。そして米本土や日本でのステージでは、オリジナル曲の中でもフラがはいる演目を上演して、「ハワイらしさ」をアピールしている。

ハワイが米本土と日本の中間地点にあり、独特の音楽文化をもつ地域であることが、和太鼓文化にも表象されている点を明確にした。

（２）ハワイ祭太鼓およびハワイの和太鼓グループのパフォーマンス、日本や米本土のグループとの交流、ワークショップ等に関するビデオテープ 200 本の DVD 化をおこない、リストを作成した。

公演記録も重要だが、練習やワークショップの記録は、具体的にどのような技術を取り入れたのかを知る上で特に重要な資料である。また彼らが新たな曲を創作する過程も記録されていた。ハワイアンミュージックのグループやフラのグループ、盆踊りのグループ等から教わり、創作にとりいれていく過程が、ビデオに詳しく記録されている。

ハワイに和太鼓グループが誕生してから日本や米本土との技術的な影響関係の中で発展して現在に至るまでの、貴重な資料となった。著作権の問題があるために、これらの映像音響資料の公開はしばらくみあわせるが、研究資料としての活用を了解してもらっている。

（３）演奏曲のレパートリーやその特徴、他のグループや演奏家とのコラボレーション、曲の創作方法について参与観察、インタビューにより記録した。

日本や米本土と共通のレパートリーは、それぞれの太鼓グループからワークショップ等で教わり、演奏許可を得ているものである。これらのレパートリーがあることで、同じレパートリーをもつ和太鼓グループとのステージやイベントでの共演が可能になっている。いくつかの太鼓の間を打ち手が動きながら激しく太鼓を打つレパートリーは、打ち手の息があわなければ怪我をするような曲でもある。そういった曲を共演することによって共同意識は高まっている。

「ハワイらしさ」を強調するような独自の

レパートリーとしては、日系一世たちの唯一のオリジナルの民謡である＜ホレホレ節＞があげられる。＜ホレホレ節＞は、一世たちが移民当時に耕地でのうたった歌で、近年ハリー・ウラタが復活させた日本語の民謡である。ウラタから＜ホレホレ節＞を習い、太鼓や笛等の伴奏でアレンジを工夫している。

ハワイの自然や文化にちなんだ創作曲には、フラのように一目でハワイらしさを感じるようなものを取り入れたアレンジもある。しかしそのいっぽうで、曲のテーマはハワイの自然であっても、材料として用いるリズムや技術は、日本の祭囃子やポピュラー音楽等、地域や音楽ジャンルにこだわることなく自由にとりいれている。それでいて和太鼓(組太鼓）共通の表現をも維持していた。オリジナル曲の創作過程は、表現媒体としての和太鼓の可能性を示唆するものであった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）

1. NAKAHARA,Yukari,Harry Urata and Hole-hole Bushi,a Song of Japanese Immigrant History in Hawaii.『愛媛大学法文学部論集人文学科編』第 32 号,2012,pp.55-81.

2. 中原ゆかり,ハワイ日系移民の＜ホレホレ節＞の継承：悲しい歌の伝説をめぐって,民俗音楽研究,第 36 号,2011,pp.13-24.査読有。

3. 中原ゆかり,ハリー・ウラタの採集ノート：井上熊太郎・安武宇一郎が語る＜ホレホレ節,愛媛大学法文学部論集人文学科編,第 30 号,2011,pp.83-107.

4. 中原ゆかり,ハリー・ウラタの採集ノート：岩崎重人・松村友次・大山幸雄・チャップリン松の森が語る＜ホレホレ節＞,愛媛大学法文学部論集人文学科編,第 31 号,2011,pp.109-137.

5. 中原ゆかり,ハリー・ウラタの採集ノート：朝倉カツエ・藤間美佐が語る＜ホレホレ節＞,愛媛大学法文学部論集人文学科編,第 29 号,2010,pp.51-77.

6. 中原ゆかり,日本留学と帰布後の音楽経験ーハワイの日系音楽界で活躍した帰米二世たちー,1930 年代における来日留学生の体験ー北米および東アジア出身留学生の比較からー,マイグレーション研究会、2009,pp33-46.

〔学会発表〕（計１件）

1. 中原ゆかり,ハワイ日系人の＜ホレホレ節＞：悲しい歌の伝説をめぐって,日本移民学会第 21 回年次大会、2011 年６月 26 日海外移住資料館。

〔図書〕（計１件）

1.中原ゆかり,第１３章　ハワイ日系人のホレホレ節ーハリ・ウラタの取り組みと影響,民謡からみた世界音楽ーうたの地脈を探る,細川周平編著,ミネルヴァ書房、2012,pp.227-242.

６．研究組織

(1)研究代表者
中原　ゆかり(NAKAHARA YUKARI)
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：00284381

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし